
董色の風が往く

美月冴

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

董色の風が往く

【Nコード】

N6596P

【作者名】

美月冴

【あらすじ】

ふわふわと空気のように、波風立てないことが唯一の長所だったはずの俺。事故で転生したのはハチャメチャな経歴の両親+取り巻き…第二の人生、死亡フラグ多すぎな剣と魔法の世界で勘違いされつつも、頑張ろうとする俺の成長と心労の日々をどうぞ。 幸せだつてあるはず…生き残れば

序章（前書き）

初めまして、美月冴と申します。

初投稿作です。頑張って書いていきたいと思えます。

小説は初めてで若輩者ですが、生暖かく見守って下さい。

序章

〈新たなる世界〉

何をやっても平均で、唯一の長所が波風を立てない…フワフワと空気のように生きてきた俺が、

ありがちに交通事故で死んで目が覚めると

そこはありがちn（んなわけあるか！！）…剣と魔法の世界だった。

（まじ、今でも夢見てるんじゃないかと思うわけよ、俺としては…）

そして俺が生を受けたのは、とんでもない夫婦の元であった。

（ま、まさかの第二の人生まれた瞬間から生死亡フラグ満載なんです…俺やってけるかな？いや、めげるな俺、頑張れ俺、今から死亡フラグ回収作業の下準備だ！！）

まずは赤ん坊生活の恥辱に耐えようと思つ、クールだ…悟り啓
けそう(泣)

序章（後書き）

やっつけてしまいました。我慢できず、調子に乗って投稿してしまいました。

これから話を広げていきたいと思えます。

感想・アドバイスなどよろしかったらお願いします。

基本ガラス製のハートなので、苦情や暴言はおやめ下さい。

俺と両親（俺）（前書き）

あけましておめでとございます。

今年も美月冴ははりつきって執筆に勤しんでいきたいと思ひます。
どうぞよろしくお願ひします。

投稿が遅れ、本当にすみませんでした。

俺と両親（俺）

シリクス・S〔シルヴァ〕・アマデウス。愛称はシーク。

それが第二の人生を歩む俺の名前となった。

（実際に外人みたいな名前付けられると、THE 日本人だった俺としては、ものすごい違和感があるけど、あの両親の息子なら似合
いそう…）

今回も性別が男であることにまず感謝しようと、プチ現実逃避する俺のぼやけた視界に、人影が写った。

転生後の俺の父は、大人の魅力満点の色っぽい美丈夫。父親とい

うより、年の離れたお兄さんみたい…それが俺の第一印象だった。
一瞬殺意が芽生えたぞ。

（父親はそういうのに敏感なのか、一瞬のことなのにすぐさま反応し、ふしぎそうに首を捻っていたが、マジあの時の目は半端なく怖かったぞ！！泣いてやるって大泣きしてやったら慌ててたし、母親に怒られてたから、少しスッキリした。ザマーミロ）

母は女神のように文句なく美しかった。マジでこの人から母乳もらってる記憶なければ、嫁さんにしたいくらいだ。親父羨ましすぎるぞコノヤロー！！

（俺本気で一目惚れを体験したのに、次の瞬間オムツ交換されるわ、授乳を受けるわけで、一気に目が覚めたけどさ…夢見たかったんだぞ！！死んだ魚のように、いや悟りの境地で甘んじて受けたけど、俺の黒歴史。記憶に蓋しておこう。）

（俺だって、コノ両親の子なら将来は有望のはず！！母親よりいい女見つけて嫁にしてやる！！）

これが両親を見て思った俺の人生の野望だった。

（チクシヨウ！羞恥心で甘えられねー、こうなったら折角の人生だし、記憶もあるんだから天才児でも目指そうかな…。死亡フラグも

解消できるし、自慢の息子を目指して、ゆくゆくは…)

そんな野望を胸に秘めているとは露知らず、両親の愛情を一身に受けすすくと育った俺は、大層な名前に霞むことなく齡三つにして、将来どころか今も楽しみみな天使の様な愛くるしい子供に成長した。

俺と両親（俺）（後書き）

去年内に投稿予定が、遅れてしまいました。

年末年始はあいさつ回りや大掃除で急がしかったです。

新年早々にインフルエンザにかかりました。皆さんも体調管理に気を付けてください。

俺と両親（父）（前書き）

お気に入りが増えて、

美月冴は嬉しさに打ち震えております。

ありがとうございます…！

俺と両親（父）

俺の名はユーリス・アマデウス。今が旬の26だ。

周りからは傭兵王などと呼ばれている。自分でも好きな剣の腕を認められていて、嬉しくも気恥ずかしさがあるが、慕ってくれる仲間や、愛する妻の手前そんな素振は1mmたりとも出してはいない…はずだ。

（俺の愛する奥さんは気づいているっばいが、笑って流してくれてるから、やっぱいい女だよな）

ニマニマしながら家路を急ぐ俺に、突然声をかけてきたやつがいた。

「（誰だ、俺の行くてを阻むのは！？）…何だミゲルか。俺は急いでるんだが？」

「アマデウス家」

ドドドドドドドド……バンッ

「愛してるぞ……！」

そう言っつて扉を蹴破つて入室した俺に、まだいた産婆は驚いて固まり、次いで溜息をついていた。

ベットで上体を起こしていた妻は、苦笑して、私も愛してるわと満面の笑みで返してくれた。

この日生まれた俺の新しい家族は、男の子だった。まるで天使のような顔立ちに、俺の息子は将来泣かせの天使だと大声でふれ回ってしまった。

数年後、そのことについて怒った息子が3日も口を聞いてくれず落ち込み妻に慰められるとは知らずに……

翌日には少し回復した妻と共に、シリクス・S「シルヴァ」・アマデウスと名付けた。

（数日後）

目覚めていた息子を覗き込んだとき、違和感を感じた。

戦場で味わうような殺気……。すぐさま反応しシリクスを守るように周囲を見渡すも、相手を見つけることはできなかった。

振り返って見たシリクスは天使の様な顔に苦笑いのような微妙な顔をしていた。

凝視していたら大泣きされ、慌てて駆け込んできた妻にみっちり怒られたのは余談だ。

(あのとぎの殺気は… まさかシリクスなんてこと…はないか。
まだ産まれて数日の赤ん坊がそんなことできやしないか。鈍ったか
?)

俺と両親（父）（後書き）

遅れてしまい、申し訳ありませんでした（焦）

一週間に2、3回の更新を目指していますが、半端なものをお届けできないと日々奮闘のお陰が遅れております。

よろしくお願いします。

美月冴

俺と両親（母）（前書き）

更新が一ヶ月弱遅れまして、申し訳ございませんでした。

言い訳は一応あるんです…って、ダメですよね!?

見捨てないでくれると嬉しいです（ジャンピング土下座）

俺と両親（母）

私の名はシルヴィア・エ「イリス」・アマデウス。

今年で18、夫のユースと結婚して2年目の新妻です。

実は私ある帝国の第一皇女ですが、夫・ユースと一緒にいたくて両親に置手紙だけ残し、駆け落ち同然で2つ隣のこの国までやってきたのです。

（ユースは心のどこかで悔やんではないかしら…私はあの人と結婚できて、今子供まで授かれて、本当に幸せなのよ）

周りからは傭兵王の妻、癒しの女神などと呼ばれている。自分でも夫を支え、私の魔法が夫やその仲間のためになれているだけで、

嬉しいわ。

(愛する夫は毎日愛を囁いてくれるし、照れ屋だけど、それを隠そうと頑張っているのにお顔にそれが現れてて本当に愛らしい一面もあって…。私は毎日でも惚れ直しているのに、これから家族も増えて、益々その魅力に磨きが掛かると思うと、心臓がもつか心配です…フウ)

妊娠10ヶ月、つわりも少なく臨月を迎えた私は夫を送り出し、帰りを待つ日々を送っていた。

「アンナ、洗濯を…あっ」

夫を送り出してすぐ侍女に声をかけていたとき、待ちに待った時の訪れを受けた。

慌てて駆け寄る侍女のアンナ(46)が私を寝台まで連れて行ってくれ、すぐに産婆が呼ばれ、慌しく準備が進められた。

そこから夕刻にかけて、シルヴィア初産にしては素晴らしい短時間の9時間で出産を終えた。

夕刻

「アマデウス家」

出産で疲れた体を清め、産まれてばかりの我が子に思わず笑みがこぼれた。

「奥様、なんて愛らしい若様なんでしょう。私赤子はもっとしわくちゃだったと記憶していたんですけど…自信がなくなってきましたわ」

「本当ね、私もこんなに早くに終わると思っていなかったし、親孝行ね」

クスクスと笑いあう私の耳に、慌しい足音が聴こえてきた。

ドドドドドドドド…バンッ

「愛してるぞー！ー！ー！」

そう言って扉を蹴破って入室した夫に、まだいた産婆は驚いて固まり、次いで溜息をついていた。

ベッドで上体を起こしていた私は、つい苦笑してしまったが、私も愛してるわと満面の笑みで返した。

この日生まれた私達の新しい家族は、男の子だった。まるで天使のような顔立ちに、夫は俺の息子は将来泣かせの天使だと大声でふれ回っていた。

数年後、そのことについて怒った息子が3日も口を聞いてくれず落ち込む夫を慰めるとは知らずに…
ほほえましく思っていた。

翌日には少し回復した私と夫で、息子はシリクス・S〔シルヴァ〕
・アマデウスと名付けた。

〈数日後〉

夫に息子の面倒を頼み、昼食の準備をしようとしたとき、突然大きな泣き声が家に響き渡った。

生まれて数日には手がからなすぎて心配し始めた矢先の息子の泣きに、私は慌てて寝室にかけこんで行った。

（まさか、シリクスに何かあったの！？ユーシスは！？）

扉の向こうには途方にくれて私を見つめる夫の姿と、産声以来に火のついたように泣く息子。慌てて駆け寄りあやすと、すぐに泣き止んだ。

事情を知り、思わずユーシスを怒鳴ってしまった。

（戦場で炎の傭兵王と畏敬をこめた称号を持つユーシスが真顔で見つめていたら、普通の赤ん坊なら気絶するか、体調崩してるわよ！）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6596p/>

董色の風が往く

2011年2月6日16時01分発行